

活力新聞

発行所
（株）シルクスティア
志摩市浜島町浜島970-4
Tel (0599)-53-2055

あの日記になつてすみません。

最近、スナック菓子袋の接着面が強すぎてナカナカ開封できない山本です。気力も大切ですが、体力への心配りも大切のようです。

大雪新潟へ 誰だね？

私の母親は結婚を機に三重県で生活していますが在所は新潟県にあり、母方の祖父や祖母、親戚は現在も新潟で生活しています。2月に入り日本海を中心とした大寒波により、新潟も例年以上の大雪にみまわれ大変のようです。そんな折、祖父が積雪に足をとられて転んで頭を打ち、即手術という連絡が入りました。

祖父の容態を気にしながら仕事を片付けるも、少し疲れていたこともあり、いつの間にか眠っていました。午前4時。目覚めてすぐの寝ぼけた頭に『そうだ！新潟に行こう！』の文字が浮

かび、車で向うことにしました。準備を整え午前8時ひとり出発。三重県から距離にして500キロ先にある新潟へむかつて。

祖父の容態を案じる気持ちと、豪雪地帯に突入する冒険心が複雑に絡み合いながらハンドルを握りまです。長野県から新潟県へ。少しづつ積雪量も増え、新潟に入ると、2mを越す雪の壁で覆われる車道を進みます。妙高高原を超える頃には、濃霧で数メートル先も確認できない厳しい天候となり、前方の車への衝突の危機もありましたが、無事に祖父と祖母の住む家に到着。辿り付けた安堵と6年ぶりの再会に高まる気持ちを抑え、インターフォンを押します。ゆっくりと開く扉の向こうに優しい祖母の姿が！『お婆ちゃん』と抱きしめたくなる衝動を抑えながら祖母との感動の対面。

『誰だね？』

完全に忘れられていらつしやいました。そりや帽子もかぶつていたし、突然孫が訪問なんて考えないでしょうが、この忘れつぷりは流石です。そんな流石な祖母に新潟を後にするまでの数日間『車のナンバーは前と一緒だね？』『妹の家は近くかね？』『質問を何度も問いかけられました。幾度となく質問されるので最後は『そうだよ』と同意すると、とても満足げな表情を浮かべる祖母が愛おしく思っています。ちなみに車のナンバーは以前の車とはまったく違います（笑）

術後の体調のよい祖父と久しぶりの祖母の姿を確かめられとても安心したので、帰宅しようとする『急いで帰らなくていい』と。祖母とのあの6年ぶりの感動的な再会をも忘れてしま

うほどの優しい言葉に、涙をこらえゆつくりさせていただくことにしました。よし！術後大変な祖父のかわりに毎日雪かきをするぞ！と決意。当然三重県では雪かきすることはありませんので素人作業ですが、数時間何十センチをも積もる大雪にうかうかも出来ず、道具を握り締め作業開始。

雪をダンブに積み込む作業を黙々と進めていきます。振り向くと、ご年配のご近所さんが同じように雪かきをしていました。『お爺ちゃん！』手際の悪い孫の醜態を見るにみかねて、防寒フル装備でヤル気満々の術後1週間の祖父が立っていました。ここにも活力じいさん発見です！とても無駄だ！の気迫に圧されて、一緒に雪かきをすることにしました。

活力みなぎる祖父ですが、雪かき後の食事の際にはいつも『苦労様、有難う』と言ってくれました。この祖父からの『有難う』の一言はいつも心からの感謝がこもっていて、これほど感謝をこめて『有難う』の言葉を誰かに伝えられるものなんだ。とても大切なことを祖父に教わりました。あ・り・が・と・う。

毎日2階まで積もる雪の雪かきに励み、気がつけば6日。新潟滞在最終日は、日曜日で仕事が休みの伯父からの誘いに甘え長野へ。神社仏閣の参拝と周辺散策に興味のある私に、伯父は善光寺に案内してくれました。小学生の頃は毎年夏休みには新潟に来ており、その頃にも度々善光寺に来て妹とかくれんぼをしていたと伯父。私の記憶からは薄くなつてしまつていますが、何十年もの時間を経て、またこの地に居るんだと思うと感慨深いものがありますね。



智将 眞田昌幸公・幸村公を祀り、智恵の神としても有名な真田神社

入場料を払い、本堂からお戒壇巡りへ。お戒壇巡りとは、瑠璃壇床下の真つ暗な回廊を巡り、中程に懸かる「極楽の錠前」に触れば、錠前の真上におられる御本尊様と結縁を果たし、往生の際にお迎えに来ていただけることです。無事、御本尊様と結縁を果たすことができ、活力もみなぎり大満足です。

長野に素晴らしい場所が沢山あるのと、帰宅後仕事が出草してしまう自分の未熟さを痛感しつつ、お次は

真田家のゆかりのある地として有名な長野県は上田城近辺を散策。

智将 眞田昌幸公・幸村公を祀り上げられている真田神社に参拝。境内には真田家の象徴ともされる六文銭（六連銭）と永樂通宝、五三の桐が掲げられており、智恵を育てる活力が満ち溢れるように感じるのには、智恵の神としても有名な神社様だからでしょうか。

宮司さんへ挨拶。突然の訪問にもかかわらず、丁寧な説明をいただくことができ、肅々とした気持ちで参拝することができました。

境内から真田神社の出入口となる東虎口櫓門までは少し距離があり、鳥居をくぐり一礼をしようと思わずに、先程とかわらない場所で御見送りいただいている宮司さんのお姿が。宮司さんからいただいた沢山の御心遣いに触れ、現代社会では希薄になりつつある思いやりやおもてなしの心を学び、私の大切な場所となりました。

今回の活力新聞につきまして、完全に私事の日記となつてしまいましたが、今回の貴重な体験を皆様に報告したく、活力新聞へ掲載させていただきました。